

ヒトの輪

婚活、相続、終活に動く

山梨中央銀行が結婚相談サービスを始めたことが報じられていました。特徴的なのは、取引先企業の福利厚生としての利用も想定している点で、取引先の法人が入会金と月会費を負担し、サービスを活用する契約企業の従業員は成婚時にのみ費用を負担するスキームです。企業の従業員定着や後継者不足の対策として機能することも目指すとしていますが、取引先との関係強化にもつながり、大変面白いと思います。銀行ではほかに、七十七銀行のグループ会社が結婚相談所「77結び」を運営、八十二銀行も婚活事業者との業務提携による結婚支援等を手掛けています。

こうした結婚相談は、多くの保険代理店も取り組んでいます。地方では自動車が一人に一台必要なので、社会人になるとほぼ確実に自動車を購入します。保険代理店は、自動車保険契約を通じて、どこに何歳の顧客がいるか把握しており、保険の更改時に婚活に関するアンケート調査を実施、希望の異性のタイプを聞いて、マッチングなどもしています。保険募集人としても、結婚して子供が生まれ、家を買ってと、ライフステージが変わるたびに保険契約を見直させていただくので、婚活については無料で取り組んでいるところも多いようです。

保険代理店では高齢化から生じる社会課題にも取り組んでいます。当会が企画協力した、大塚寧々さん主演の映画「ソーゾク」は、今年10月くらいに上映予定です。東京都内の普通の家庭で母親が亡くなり、残された遺産（特に不動産）を巡り兄弟姉妹が争うというストーリーで、元気なうちに相続について家族で議論しておくべき、との気付きを与える映画です。映画を通じて相続・終活問題を提議するわけですが、「たかが保険代理店の団体」でもこうしたことができるのです。ちなみに続編の制作も検討中で、こんな企画でやって欲しい、一緒に作ってみたいという方がいらっしゃいましたらプロデューサーを紹介しますので、ご一報いただければと思います。また、来年2月以降には映画の二次使用が可能となります。有料ですが、銀行の店舗や市民会館、公民館等々を使って上映したい場合も、ご連絡ください。

とにかく何にでも取り組む当会は、6月26日、落語家を起用した「笑福終活サロン」を練馬区

の光が丘で開催しました。テレビの『笑点』でお馴染みの三遊亭小遊三師匠をお招きし、相続・終活に関わる古典落語「崇徳院」を披露。その後、師匠を交えたトークセッションを開催しました。光が丘は古い団地が多く相続・終活の対象者が多いことから、セッションには、遺言の書き方、不動産の相続に詳しい方々をパネラーに加え、大いに盛り上がりました。また、葬儀社とアライアンスを組む保険代理店と一緒に、全国の葬祭場を会場に笑福終活サロンの開催も企画しています。葬祭場では価格帯が違う棺桶を並べた「入棺体験会」や「遺影撮影会」等も実施、楽しく終活を考える場を創出します。オリーブ少額短期保険の「死亡保険金を葬祭場に直接支払うことができる生命保険」も販売、葬祭場も顧客の囲い込みができます。

何度も言いますが、「たかが保険代理店の団体」でもこうしたことができるのです。以前、保険会社経由で「某銀行の顧客向けセミナーを企画して欲しい」と依頼を受け、「女性の起業支援」をテーマに、銀行の会議場を使って日曜日に開催しようと提案しました。地元で起業に成功した方、著名な女性起業家を招いた講演会の企画でしたが、「日曜日にお客さまが会場に来られて転倒した場合の責任は誰が取るのか」と訳の分からない発言をした役員がいて、「だったら声掛けるな」と席を立ったことがあります。地域銀行は地域に貢献することが企業価値です。お客さまの声をしっかり聴いて、とにかくお客さまに役立つことをやっていくことが肝要ではないでしょうか。結心会では、3カ月ごとに開催の定例会でお客さまの声を集め対策を考え、加盟代理店で共有しています。この結果、例えば、「来店客にアンケートを書いていただいたら、当日が誕生日だった」という事案について全国の保険ショップではほぼ統一した対応ができています。「昨日が誕生日だった」「明日が誕生日だった」ケースの対応も定めており、こうした努力が、保険ショップ全体のイメージ向上につながっていると思います。

今こそ、全国の銀行がネットワークを組んで、社会課題解決のために事を興すべき時ではないでしょうか。変なこだわりを捨て、真摯に「お客さまのため」に取り組んで下さい。

(保険健全化推進機構結心会 会長 上野直昭)